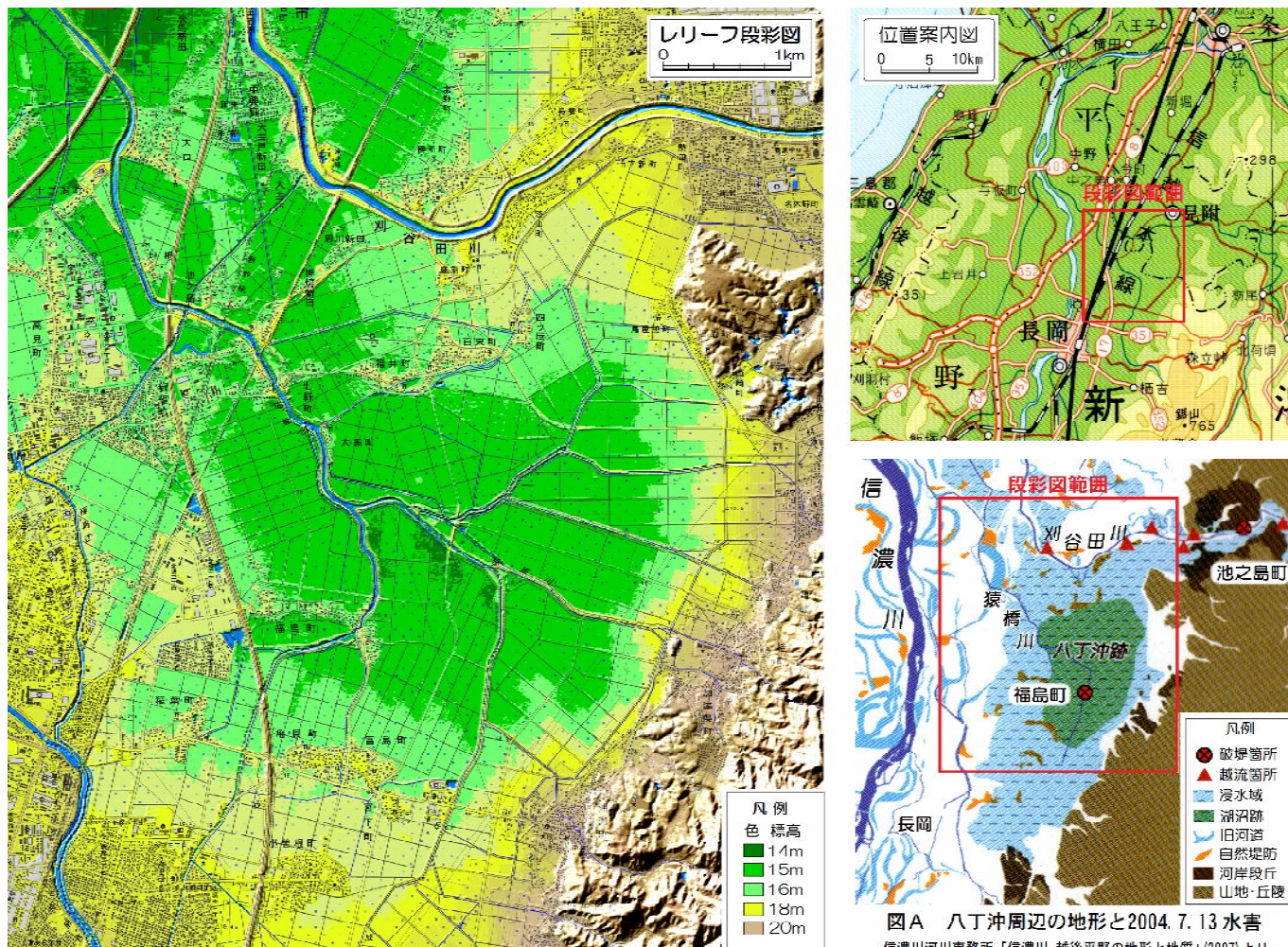


1 6. 現在の変動地形が読みとれる「八丁沖」 (長岡市福島町周辺)



図A 八丁沖周辺の地形と2004. 7. 13水害
信濃川河川事務所「信濃川・越後平野の地形と地質」(2007)より



図B 2004年の水害で水没した「八丁沖」



図C 耳取町付近のゆるい凹状の変形

「八丁沖」(図A)と聞くと北越戦争を思い出す方もおられると思います。河井継之助が率(ひき)いる長岡藩士たち(東軍)が、新政府軍に落ちた長岡城を奇襲・奪還するために渡った沼地です。八丁沖は今こそ美田に変わっていますが、当時は百東町の南から福島町・富島町の東におよぶ東西3km、南北5kmの大沼沢地でした(八丁潟とも呼ばれます)。2004年の7.13水害では1週間以上にわたり水につき、大きな池になりました(図A, B)。

さて、富島町あたりから北東方向の水田を見ると、心持ち船底状の窪地を観察することができます(図C)。そこが周(まわ)りより低い「八丁沖」です。

八丁沖が沼地ないし低地になった原因は、この平野ができた約1万年前以降、少しずつ地盤が沈んでいるからです。

八丁沖の北東方向の見附市耳取町にある小高い丘は、ゆるくU字状にへこんでいます(図C)。この丘は悠久山と同じ御山層でつくられ、ほぼ水平な地表面ができたのは50万年前でした。ここが50万年かけて写真のようにU字状に変形したわけです。これと同じ運動で八丁沖も少しずつ変形しているのですが、その期間がまだ1万年程度と少ないことと、土砂が少しずつ堆積するために、見てはっきり確認できるほど凹状になっていないのだと考えられます。